

JR連合

社員で考え社員のための労働運動を目指す企業内労働組合。
心とところをつなぐ相互扶助活動と、公正な社会を創ります。

ジェイアール・イーストユニオン
仙台地方本部



JREユニオン仙台地本

発行責任者 水間 勉
編集責任者 齋藤 勝彦

〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺2丁目1-20 桜井コーポ405号室

TEL 022(352)4679 (FAX兼用)

イーストイノベーションの実践!

仙台地本第4回定期大会

安全で安心して働ける企業風土をめざし、

労働組合のあるべき姿を考え、

変革に挑戦・達成しよう!

平成28年7月24日イ

ストユニオン仙台地方本部はレオパレス仙台に於いて第4回定期大会を開催した。代議員と執行部はもとより多くの傍聴者、さらにはOBの先輩方も駆けつけてくれた。



三瓶副執行委員長は参議選かわいたかのり当選朗報を組織拡大につなげよ

うと開会の挨拶をした。



大会議長に選出された仙台営業分会の島田博文議長は「安心して安全な企業になっっているだろうか。来年JR発足30年を迎える。国鉄改革の負の遺産を大会の成功とこれからの2年間の踏ん張りを変えていこう。」と議長就任挨拶をした。

約8万人の仲間が

加入するJR最大の

産別JR連合

水間執行委員長挨拶

(要旨)

熊本県熊本地方を震源とする大地震が発生しました。全ての被災された方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。連合

主催の熊本ボランティア団にJR連合を代表して高橋前中執と鈴木さんが一週間という長きにわたり代表で参加して頂きました。



先般行われました第24

回参議院選挙は、与党の勝利となりました。民進党も議席を大きく減らす結果となり、政権交代可能な政治情勢からは大きく後退をしました。そんな中、JR連合で支援した、とりわけ比例代表で「かわいたかのりさん」

の国政復帰は我々に多くの希望を灯してくれました。参議院選挙に対する組合員の取り組みに感謝申し上げます。

第1点目は、安全問題について

安全の原点は職場にあります。「ヒューマンエラーは結果であり原因ではない」との理念に基づき、ミスや不安な事象などを確実に事故防止につながる取り組みを積み重ね、職場からの安全を確立していかなければなりません。



JR東日本には自分ひとりで完結するような仕事はありません。異なる専門性を持つ社員が協力し、チームワークよく、相手のことを思いやりながら、みんなの力を合わせてひとつの輸送を達成させています。職場での先輩や同僚、後輩など、人と人との関わりは家族のようなところがあり、明るく活力のある社風を生んでいきます。同じ使

命感を持った人材が、熱意を持って、それぞれにプロらしく、きちんと、チームとして仕事に取り組み、技量を高め、会社をよりよい方向に発展させていく。そのプロセスを通じて、世の中の発展に寄与するという誇りとやりがいを実感すると考えています。それがJR東日本であると強く認識しています。

一部組合が主張している、連続する事故や不祥事の要因の一つに、会社によるマイプロジェクトの活動への偏重と主張していることについて明確に否定をしたいと思えます。

2 点目は、JR東日本の民主化について、

これまで保留扱いしていた旧ジェイアール東日本労働組合の脱退届については、JR連合は忸怩たる思いを持ちつつ保留

解除を決定しました。私たちは、民主化闘争の原点に立ち返り「あるべき労働組合像・労使関係像」を掲げ、労働組合が職場、社会に対して役割を發揮するためには、労働組合の「政策能力」「組織力」を高めるとともに、社会に評価される存在、組織となる必要があります。職場や働く者の代表として、意見や実態が正しく把握できる情報を集約す



る力や、それを分析する能力を持つことであります。今後もJR労働運動から非民主的勢力の掃討に向け、しっかりと訴え取り組んでいきたいと考えています。その中から理解を得る活動をおして、組織の拡大につなげていかなければなりません。

JR東日本に本当に相応しい労働組合像でもあります。何もしなければ問題は解決しません。

3 点目は、人材確保と技術継承について

それぞれの分野でのチームワークの重要性や、グループ会社と一体となった安全の取り組み、技術継承も含め、人材の確保が喫緊の課題となっております。各系統を超えた課題として、イーストユニオンが発信する教育の有り方の検討など、皆さん

の声を集約しながら本部とともに進めて参ります。仙台駅出札の業務委託に向けては、大規模な事案であります。JR TSS が仙台駅に逆出向で実習に来ています。問題点は多いと思いますがTSSの若い人たちが苦勞することのない様に考えています。国鉄時代に長きにわたり採用がなかったことを考えると、この時期を、どう乗り越えていく

のかが今問われてもいると思えます。今回の業務委託事案への対応は会社の求心力の低下につながらないことを願いたい。国鉄改革の目標であった鉄道の再生は、将来とも維持していかなければならないと思えます。JRだけの努力で現在が成し遂げられた訳ではありません。会社発足30年目であり、次の30年

に向けた基礎作りの重要な問題であると考えます。しかし、JR東労組、本部本社間で仙台駅業務委託の中止を通告し事案が前に進んでいません。何故仙台駅だけなのか。この間の議論を覆すような議論は許されないと思えます。問題点の改善については交渉の場で議論していくことが大切と考えています。

エルダーの雇用の確保と営業関係の要員事情が逼迫していることから、駅業務委託の更なる推進が施策の考え方であると理解しています。仙台支社の5年後の現状はどうなっているのかを明らかにし、今後、働く人の不利益にならないよう、我々は、この現状を乗り越えた先の将来像を若い世代の社員に示すべく真摯に交渉を進める考えであります。

改めて組合員のご理解をお願いいたします。
組織の存亡をかけた正念場の年
結成3年目を迎えて、結果を必ず求められる年となることを全体で確認したいと思えます。他労働組合員へのアプローチを強化し、革マル派浸透の危険性や運動の異常性について、警鐘を鳴らす取り組みを最大の取り組みとしていく決意をしたと思えます。

頼りになる組織であることを目指します。組合員からの声を力に変えていくことを背景に、会社に要求を迫ることのできる、存在感のある組織であることが、組合員に込める運動となります。JR Eユニオン本部が提唱するイースト・イノベーションと言えます。私たちが、全力で取り組

む課題は、「未来をつくる闘い」です。皆さん、一緒に「未来に誇れるJR東日本」をつくって参りましょう。以上、決意を申し上げ執行委員会を代表しての挨拶といたします。

忙しい中お越しいただいた

来賓の皆様

- U Aゼンセン宮城県 富永支部長
- 亘理町 小野一雄議員
- 全交通仙台事業所 伊賀所長
- 東北ろうきん 景山理事長
- OB会 安西会長

イースト・ユニオン中央本部 国井事務局長



7月10日定期大会を開催した。課題は人材育成と技術継承である。この2年間が勝負となる。昨

日は関東地本と新潟地本で大会が開催された。必死になって組織拡大をするということを再確認できた。

・鈴木さん熊本地震ボランティア参加に感謝申し上げます。

・東労組はどの方向に向かっているのか、青年部の沖縄集會。会社効率化反対運動などは労使共同宣言を結んでいる組合とは思えないほどだ。

・組織拡大は日頃の世話役活動が大切だ。話しかけることから始めよう。

会社の本来あるべき姿、労働組合としてのあるべき姿を伝えよう。これも一つの技術継承だ。

・イースト・イノベーションを策定した。労働組合とはこういうものだ。やり方を変えていこう。キャッチフレーズをみんなで考えよう。

・組合費が安くなった。月額 現職組合員は基本

給×18/1000 エルダー組合員は2000円他労組へアピールしよう。

・東日本の中にJR連合旗をいつまでも守るために頑張ろう。

主な質疑

根本好隆代議員 福島営業

運輸車両分会



・仙台駅出札委託の今後の展開と郡山駅について

・お客様への列車遅れ時の案内表示機について

・配布用のポケット時刻表は使用するお客様の立場に立った作成をすべきだ

・出札窓口の平日と休日の体制について

・防護無線発砲や異音検知での列車再開アナウンスから実際再開するまでの時間がかかりすぎる。

佐藤 徹代議員 仙台営業分会



支部としてポウリング大会や学習会・花見を開催してきた。営業関係の勉強会を開催する。

・パートナー会社がなくては成り立たない。業務委託会社の社員はお客様が線路に物を落とされても線路に降りて拾うことができない。本体と委託で違いを明確にすべき。

・東日本民主化闘争は思いやりをもってやっていこう。

橋 伸幸代議員 福島設備分会



・樹木伐採について手に負えない状態になっている。業務委託などの対策をすべきだ。

・多客期の強化態勢中の連絡体制の要員について

青田節雄代議員 仙台運輸車両分会



・旧ユニオンはJR連合の旗を守れなかった。県協など産別の運動をしているのは私たちイースト・ユニオンである。革マルJR総連に対するJR連合である、地本からの応援をお願いする。

・支部をなくし分会とし機関を少なく簡素化となるが外へ向けての運動に地本の心配をお願いする。

・若手が疲弊している。マニュアル型・会社型社員が増加している、職場を終えてから若手と膝を

交えて、社会人としてのありかたや様々な悩みの相談にのってくれる先輩がいなくなっている。若手社員との交流を深めよう。

集約答弁 瀬戸事務局長



・16春闘内容の理解を深めるため勉強会をしよう。

・JR発足30年間東日本の将来を考え民主化闘争を展開して来たのは私たちだ。そのことを伝えていこう。この会社を国鉄の二の舞いにしては駄目だ。その為東労組から組織拡大をしよう。

・重大労災は減っていない。自分自身のためにも小さな事故の芽を摘み取ろう。

・仙台駅出札業務委託は提案した会社が真摯な態

度で組合に説明すべきだ。
 ・一人一役全員が主役で
 ある。みんなで話し合い
 みんなで確認してみんな
 で行動しよう。頑張りま
 しょう。

新役員は次の通り

新しく柘窪吉則執行副
 委員長と添田寿男事務局
 を選出した。
 退任となった三瓶信次執
 行副委員長と瀬戸事務局
 長は本部中央執行委員と
 して更に奮闘することに

仙台地方本部 新役員

執行委員長	水間 勉	仙台駅
執行副委員長	鈴木義一	郡山電力技術センター
事務局長	柘窪吉則	南仙台駅
執行委員	添田寿男	仙台駅
	小林俊一	総務部人事課 (出向)
	齋藤勝彦	新幹線総合車両センター
	関根隆文	総務部人事課 (出向)
	清水孝雄	長町駅
会計監査	渡辺 近	総務部人事課 (出向)
	大泉浩康	名取駅

みんな集まれ8/21 キャンプIN笹川の流れ
詳細は地本役員まで問い合わせを

なった。

**水間執行委員長の
 団結ガンバロウ**



大会宣言(案)

本日、私たちジェイアール・イーストユニオン仙台地本は第4回定期大会をホテルレオパレス仙台において開催し、「安全で安心して働ける企業風土を目指し、労働組合のあるべき姿を考え、変革に挑戦・達成しよう」のスローガンのもと運動方針を満場一致で決定し、実現に向けて全組合員が一丸となり力強く運動を展開し前進させることを確認した。

私たちの職場には安全に対する問題が山積みされている。平成26年2月の京浜東北線川崎駅構内で工事車両と回送電車の衝突し脱線転覆した事故や、一昨年の4月の山手線電柱倒壊事故、東北線新幹線郡山駅構内のトロリ線切断事故、8月の根岸線トロリ線切断事故、11月にはパートナー会社に出向している社員の死亡事故、常磐線で除草剤散布の台車と最終電車が衝突する事故が発生した。事故の連鎖が止まらない。事故の重要性はもとより、過去の事故の教訓が生かされていない事ばかりか、関連会社・パートナー会社への教育・訓練が徹底されていないことが明らかになった。経営を脅かす重大インシデント事故や社員のモラル欠如・モチベーションの低さがあり、改めて人材育成や技術継承の重要性を再認識し社会から信用されるJR東日本を早急に創り上げなければならない。「お客さまが安全で安心して利用でき、JR・関連会社・パートナー会社それぞれの社員が安全で安心して働ける企業風土づくり」を全組合員が職場から実践する。

私たちの組織には時間は多く無い。組織拡大なくして民主化闘争の勝利はなく、組織の存続すら危ぶまれる。今一度「JRに過激派革マルはいらない」の原点に立ち、東労組から良識ある組合員の救い出しに本気に取り組みなければならない、職場での仕事に取り組み真摯な姿勢、魅力ある人間性、世話役活動、それぞれの組合員の強みを最大限に生かして、とにかく接点を持ち、個々の接点を多くの接点に発展させ、私たちの組合の考え方や取り組みを知ってもらい賛同者を増やすこと、そして私たちに今、一番足りないものは、何が何でも組織拡大するという個々の気持ちであり。優しい先輩だけでは、組織拡大は叶わない、個々が勇気を出し、今一歩大きく踏み込んで、強い信念、強い押しでがむしゃらになり、連携を取り組合員全員チームイーストで組織拡大を目指していく。

JR連合の提唱する「あるべき労働組合像・労使関係像」を私たちの会社でも実現し私たちは大胆に自らを変革させる「イーストイノベーション」で運動の強化をしていく今大会で決定した運動方針を組合員全員が一丸となり目標達成に向け奮闘する。

以上、宣言する。

平成28年7月24日

ジェイアール・イーストユニオン仙台地方本部
 第4回定期大会

**大会終了後の懇親会 添田
 事務局長の司会**



**乾杯の音頭は柘窪執行副
 委員長**



OB会長安西さん



中央本部菅野執行委員長



鈴川さん

